

アカアマダイ種苗生産技術開発

(新規栽培対象技術開発事業)

堀 玲子・後藤悦郎

1. 研究目的

近年、アマダイ類の漁獲量は減少し、それに伴って生産金額も低迷している。アカアマダイは、漁獲量、生産金額の面から県内沿岸漁業における位置付けが高く、特に「小伊津アマダイ」はブランドとして高い評価を得ている。こうした状況から、アカアマダイの栽培漁業に対する強い要望が上げられ、島根県第5次栽培漁業基本計画において新規栽培漁業対象種に選定された。そこで、基本計画目標^{*}の早期実現を目指すべく、種苗生産技術開発を行う。

※アカアマダイ種苗の放流数値目標：平成21年度 全長100mm 1万尾

2. 研究方法

(1) 生物測定調査

栽培漁業の基礎資料として生物情報を収集するため、JFしまね平田支所佐香出張所にて市場調査を実施し、銘柄別の体長組成及び体重を把握した。また、採卵時期を決定するため、生殖腺重量を測定した。

(2) ウイルス性神経壊死症 (VNN) ウイルス保有率の把握

アカアマダイ等、海産魚類の種苗生産過程で疾病の発生が問題となっているウイルス性神経壊死症について、天然海域におけるウイルス保有率を把握するため、眼球及び生殖腺を検体としてPCR検査を実施した。

(3) 種苗生産試験

出雲市平田地先で漁獲された活アカアマダイを用いて採卵、種苗生産を行った。

3. 研究結果

(1) 生物測定調査

佐香出張所におけるアカアマダイの銘柄は、昨年度と同様に3S~LLの6段階あり、各銘柄

とも1箱3kgであった。各銘柄の平均全長は、3S:251mm、2S:285mm、S:311mm、M:345mm、L:392mm、LL:442mmであり、各銘柄の全長は昨年度の値との差は見られなかった。また、生殖腺指数^{*}は雌雄ともに7~8月にピークが見られ、雄は7月のL:0.196、雌は7月のM:4.407が最大であった。

(2) ウイルス性神経壊死症 (VNN) ウイルス保有率の把握

検査を実施した118尾中9尾がVNNウイルスを保有し、保有率は7.6%であった。

(3) 種苗生産試験

出雲市及びJFしまね平田支所の協力により、9月20~21日に一本釣り及び延縄で確保された活魚を用いて採卵した。人工授精で得られた受精卵29万粒を用いて種苗生産を行った。このうち15万尾が孵化したが、日齢9までに顕著な初期減耗が認められ、生残率は30%まで低下した。日齢65~72に22.6~30.3mmサイズの種苗を2.8千尾取り上げ、生残率は1.84%、VNNウイルスはPCR検査により陰性であった。しかしながら、これらの種苗を中間育成したところ、日齢108以降の稚魚からVNNウイルスの保有が確認された。

次年度以降の種苗生産技術開発においては、主としてVNNに対する疾病対策が重要である。

4. 研究成果

平成19年3月に福岡市で開催された平成18年度アカアマダイ栽培漁業検討会において、種苗生産試験結果について報告した。

^{*}生殖腺指数：体重に対する生殖腺重量の割合